

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

LR T旅行気分で秋の暮れ

緑2丁目 片嶋 青水

●特選の選評 昨年、LR T(ライトライ)ンが開通した。早速試乗気分で乗ったところ、深まる秋の景の中をまるで旅行に出掛けたように、うれしくて楽しくて、この一句が生まれたのだろう。私も昨年、飛山城址公園まで初めてライトラインに乗って吟行した。車内はほぼ満席であったが、静かで明るくて、その時の気分がこの一句から昨日のことのように伝わってきてうれしかった。この句に出会えてありがとう!と言いたい。

俳句



加茂都紀女先生

入選

木守柿熊さんごめんよ新ルール

中岡本町 中沢 智子

大根のまつぺん揺れるシルバークー

岩曾町 半澤 美恵子

ただいまとおでんみやげの妻の声

さつき3丁目 野武 俊志

薫菘の納豆作り頬被

東岡本町 志鳥 香代子

特選

冬晴れの銀杏黄葉の並木道 車も人も黄に染まり行く

西2丁目 佐藤 順子

●特選の選評 穏やかな冬日和、銀杏黄葉、並木道。作者の眼に映じた上の句は調べよき景である。ここに下の句を起こさせる。「車も人も黄に染まり行く」心の内なるものが入り込み、銀杏黄葉の間より見える空も、空気を黄に染める。つまり万物を黄に染め上げた。黄の幻想曲を奏でるがごとく、雰囲気のある短歌であった。

短歌



安野登美子先生

入選

はらはらと散る山茶花の地を染むる 自ら供養の散華なりしや

下田原町 五十嵐 由美子

たつぷりと伝へおきたし君にこそ 生きる理あまたあること

大曾5丁目 岩淵 照美子

糠床が生きてる妻の台所 歴史の味を絶やさず守る

弥生1丁目 大河原 信昭

空白く色なき風は山を染め 静かに明ける立冬の朝

長岡町 赤羽 スミ

特選

願い事催促に行く初詣

東岡田2丁目 渡辺 眞左

●特選の選評 多くの日本人が神社や寺でお願い事をするが大部分は叶わずじまいである。それでも少々の賽銭で頼んだ願い事を年の初めに確かめに行き、「どうしましたか」と念を押す。神仏を恐れぬ大胆不敵な行動に神も仏も苦笑していることだろう。

川柳



佐藤隆久先生

入選

スーパーで七草摘んで作る粥

中岡本町 竹内 竹ノ花

ストレスも流してママの洗い物

宝木本町 金原 美智子

恋の句も出来ず白菜漬けこんで

下栗町 大塚 榮子

福寿草咲いてあわてる梅桜

下栗町 土屋 勝美

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

〒320-8540
住所・氏名・壇名

宇都宮市役所
広報広聴課

裏

作品への思い
作品への思い